

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	開会挨拶・趣旨説明
他言語論題 Title in other language	Opening and Aim of the Symposium
著者 / 所属 Author(s)	伊藤克尚 (ITO Yoshitaka) / 国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査員、文教科学技術調査室主任
書名 Title of Book	国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭にどう向き合うか— 科学技術に関する調査プロジェクト報告書
シリーズ Series	調査資料 2025-4 (Research Materials 2025-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2026-2-26
ページ Pages	3-8
ISBN	978-4-87582-952-2
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

科学技術に関する調査プロジェクト2025シンポジウム

**国際共同研究と経済安全保障
—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—**

【開会挨拶・趣旨説明】

国立国会図書館 調査及び立法考査局
文教科学技術調査室主任 伊藤 克尚

スライド 1

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館 調査及び立法考査局の業務

```
graph TD; A[自発的な調査成果の刊行物  
(年間約310記事)] -- 提供 --> B[国会議員]; C[国会議員の依頼に基づく調査  
(年間約3万3千件)] -- 回答 --> B; B -- 国政に反映 --> D[国民]; A -- 掲載 --> E[国立国会図書館ウェブサイト  
同局刊行物 (近刊~2003年頃まで*)  
<https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/newpublication.html>  
(※これ以前は当館デジタルコレクション  
<https://www.dl.ndl.go.jp>  
の検索をご利用ください)];
```

2

スライド 2

科学技術に関する調査プロジェクト

- 科学技術に関わる重要な国政課題の中から毎年複数のテーマを選び、外部の専門家の方々と連携・協力して調査・分析
- 中長期的なテーマについては、有識者の方々に御報告・御討議いただくシンポジウム等を通じて課題を展望
<<https://www.ndl.go.jp/diet/ta>>



3

スライド 3

科学技術政策に関するこれまでの報告書

- 2010 「科学技術政策の国際的な動向」(2011.3)
- 2011 「国による研究開発の推進—大学・公的研究機関を中心に—」(2012.3)
- 2016 「冷戦後の科学技術政策の変容」(2017.3)
- 2017 「政策決定と科学的リテラシー」(2018.3)
- 2019 「「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成」(2020.3)
- 「ポスト2020の科学技術イノベーション政策」(2020.3)
- 2022 「科学技術のリスクコミュニケーション—新たな課題と展開—」(2023.3)
- 2025 「国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—」

4

スライド 4

本日のパネリスト・ファシリテータ

【パネリスト】（御登壇順）

浅谷 公威 氏（東京大学大学院工学系研究科特任准教授）

齊藤 孝祐 氏（上智大学総合グローバル学部教授）

明谷 早映子 氏（東京大学大学院医学系研究科利益相反アドバイザー室長
・弁護士（第二東京弁護士会所属））

村上 由紀子 氏（早稲田大学政治経済学術院教授）

【ファシリテータ】

吉岡（小林） 徹 氏（一橋大学イノベーション研究センター准教授
・国立国会図書館客員調査員）

5

スライド 5

本日の進め方

【問題提起】 **吉岡（小林） 徹 氏**

【パネリスト報告】

(1) 大規模学術論文データからみた
国際研究エコシステムと日本の立ち位置 **浅谷 公威 氏**

(2) 国家間関係から科学技術活動をみる
—国際政治学の視点— **齊藤 孝祐 氏**

(3) 「開かれた科学」のための政策と
研究マネジメント **明谷 早映子 氏**

(4) 3名の報告へのコメント **村上 由紀子 氏**

—— 休憩 ——

【パネルディスカッション及び質疑応答】

パネリスト／ファシリテータ **吉岡（小林） 徹 氏**

6

スライド 6

開会挨拶・趣旨説明

国立国会図書館 調査及び立法考査局

専門調査員・文教科学技術調査室主任 伊藤 克尚

本日は大勢の方に御参加いただき、ありがとうございます。開催に当たり、本シンポジウムの枠組みと開催趣旨を簡単に御説明いたします。

国立国会図書館は、国会議員の調査研究に資するために国会に置かれた組織です。調査及び立法考査局では、国会議員からの依頼に基づく様々な調査を行っております（スライド2）。また、将来の国会のニーズを予測して自発的に様々なテーマでの調査を実施しており、その成果を刊行物として公表しております。

この自発的な調査の一環として、重要な国政課題の中から複数のテーマを選び、各分野の専門家の方々にも御参画・御協力いただいて調査分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を毎年実施し、報告書を取りまとめております（スライド3）。とりわけ中長期的なテーマについては、専門家の方々に御報告・御討論いただくシンポジウム等を通じて課題を展望し、その記録に解説を付して報告書としてまいりました。

本日のテーマは、「国際共同研究と経済安全保障一閉じた科学の台頭にどう向き合うかー」です。科学技術に関する調査プロジェクトでは、開始以降、科学技術政策の在り方について調査を積み重ねてまいりました（スライド4）。我が国の研究活動の戦略的国際展開や経済安全保障に係る研究開発等の推進といった点は、現在、政府における「第7期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた検討において議論されるなど、広く注目を集めております。そこで、今回は国際的なイノベーション活動に着目して、科学技術・イノベーションの現状と今後の課題について展望いたします。

パネリスト、ファシリテータとして関係する分野で御活躍の専門家の方々をお招きすることができました（スライド5）。まず、パネリストの先生方を御登壇いただく順に御紹介します。

東京大学大学院工学系研究科特任准教授の浅谷公威先生は、大規模な学術書誌情報を用いてイノベーション創出の壁を研究するサイエンスオブサイエンス（Science of Science）を中心に、計算社会科学の研究に取り組まれています。

続いて、上智大学総合グローバル学部教授の齊藤孝祐先生は、科学技術・イノベーションと国際政治学、安全保障論などとの関係を研究されています。

次に、東京大学大学院医学系研究科利益相反アドバイザー室長、弁護士でいらっしゃる明谷早映子先生は、多くの大学研究機関等において、利益相反マネジメントに関する組織の委員を務められています。

さらに、早稲田大学政治経済学術院教授の村上由紀子先生は、労働経済学、イノベーション研究が御専門で、国際共同研究の実態について長年にわたり研究されています。

最後に、ファシリテータをお務めいただく一橋大学イノベーション研究センター准教授の吉岡（小林）徹先生は、技術経営、科学技術政策が御専門で、また、今年度の当館の客員調査員としても御指導いただいております。

本日は、最初にファシリテータの吉岡先生による問題提起の後、浅谷先生、齊藤先生、明谷

先生にそれぞれ 20 分程度の御報告をいただき、その御報告について村上先生にコメントをいただきます。その後、討論に入る予定です（スライド 6）。

限られた時間ですが、御登壇の先生方には幅広い視点から自由に御議論、忌憚（きたん）ない御意見をいただければ幸いです。

以上をもちまして、開催趣旨の説明といたします。

（いとう よしたか）